
三題噺 「帰国子女」 「天然」 「テニス」

タクミン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題噺 「帰国子女」 「天然」 「テニス」

【Nコード】

N8277R

【作者名】

タクミン

【あらすじ】

三題噺書いてみました^^
暇でしたらぜひどうぞ^^

いつも部活に行くとき、君のことを想う。

今、わたしがこれをやっているのは全部、きみのおかげだよね。

「はじめまして、アメリカからきました」

中二の春ごろ、わたしはとある中学校に転校してきた。

日本語はしゃべれたけど、いろいろ不安だった。

友達できるかな？勉強はついていけるかな？いじめられないかな？

そんなときだったね、きみが最初に話しかけてくれたのは。

「プ、プリーズ、ビカー、ムア、マイ、フレンド？」

ぷっ！おっかし！ぜんぜん片言じゃないwww

自己紹介のとき、日本語で話していたでしょ？

きみの天然っぷりを見ると思わず顔が緩んで、心配事もふっとんだ。

それからいっぱいお話ししてすぐに仲良くなったね。

少しすると部活に入らなくてはいけなくなった。

いろいろな部活を回っていたけど、わたしは特にやりたいこともなかった

し、なにもやりたくないなあ、なんて思ってたっけ。

最後、テニス部を見に行ったとき、きみがいたね。

必死にがんばってたね。何回も転んで砂まみれになりながらも。

正直とてもかつこ悪かった。

でもどうしてだろう。わたしはテニス部に入ることを決めた。

今を思えば、あのときにテニスにひたむきなきみに恋をしちゃったんだ。

「あのさ、練習つきあってもらってもいいかな？」

何回こういって二人つきりで練習したんだろう？

日が暮れるまで部活をやってから、よくコートをとって練習という名のデ

ートをしていた。

もつともきみは天然というか、鈍感だったから本当に練習に付き合
ってる

だけだったんだろうけど。

毎日毎日練習して、最後の夏。

「ぜったい全国行こーな!!」

そんなことできないよとおもいながらもうなずいた。

笑ってきみを試合に送り出した。

それがわたしの聞いた、別れの言葉だった。

彼は、あんなに強かったのにあっさり負けてしまった。

わたしまで泣けてきた。

あの時なんで慰めに行かなかったのだろう？

次があるよって言わなかったんだろう？

わたしはきみになにもできなかった。

そして君は転校した。

どこだったかな？とっても遠い県に。

ある日、家に帰るとおくりものが来ていた。

ラケットだった。

新品でぴかぴかだったけど、ラケットの側面にこう書いてあった。

「ぜったい全国行こーな！！」

あれから二年。きみとはそれ以来なんの連絡も取ってないけど、あのラケット

ットはずっとつかってるよ。

それで毎日部活をがんばっているんだ。

ぜったい全国に行つて、伝えられなかったこの想い、今度はぜったい伝え

るんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8277r/>

三題噺 「帰国子女」 「天然」 「テニス」

2011年10月7日20時41分発行